

大会宣言

福祉職場の人材不足がかつてないほど深刻になっています。全産業平均に比べて月額で約10万円も低い賃金水準とともに、人手が足りないために休憩・休暇がとりにくく、持ち帰り仕事などを強いられる労働環境の悪さが最大の要因です。やりがいと理想をもって福祉の仕事に就いても、忙しさのなかで心身を壊し、離職に追い込まれる構造がつくりだされています。

専門職にふさわしい処遇改善を求める当事者として、私たちは各地で宣伝行動をおこない、自分たちの言葉でアピールするなかで、連日のようにマスコミ報道されました。行動が変化を生み、関心・理解・共感を広げ、社会問題にしてきました。政治も動かしつつあります。忙しさに負けず、小さな行動を積み重ね、変化をつくってきたのは私たちです。

みんなで学習を重ねて「処遇改善を必ず勝ち取ろう」と要求書を提出し、十数年ぶりのベースアップを獲得した喜び。「半年後まで待たないと取れないのはおかしい」と、有給休暇を勤務開始日から取得できるようになった成果。処遇改善を求める宣伝行動をおこない、「宣伝物はすぐなくなるほどの反響だった」「通行人からあたたかい声をかけられた」「初めて地元の新聞に大きく掲載された」という変化。「パワハラ被害は私で最後にしたい」「不当な処分は許さない」とたたかいつづけるなかでの仲間の大きな支え。「自分たちで声をあげないと、いい職場には変わらない。変えたい」と組合を結成した決意などが、実感をもって語られました。

いま、子育て支援や介護の充実、障害者の権利保障などを多くの国民が求めています。人の生きる力と向き合い、その権利を保障するのが私たち福祉の仕事であり、使命です。だからこそ、一人ひとりの権利を守り、働きつづけられる福祉職場にするために、福祉保育労の存在は欠かせません。私たちの持つ力と権利、役割に確信を持ち、組合員を増やしていく必要性を確認し合いました。

憲法改悪を許さないこと、戦争法の廃止、職員の大幅な増員、賃金の月10万円引き上げなどの実現を求めて、私たちは立ち上がります。何ができるか、自分の言葉で語りあい、「力をひとつに」していきます。社会と政治を変えていくために、自分たちには無理とあきらめるのではなく、ストライキも含めた大きな行動に踏み出します。

変化をつくるのは私たちだ！ 明るく楽しく力強くがんばることをここに宣言します。

2016年9月18日

全国福祉保育労働組合第32回定期全国大会